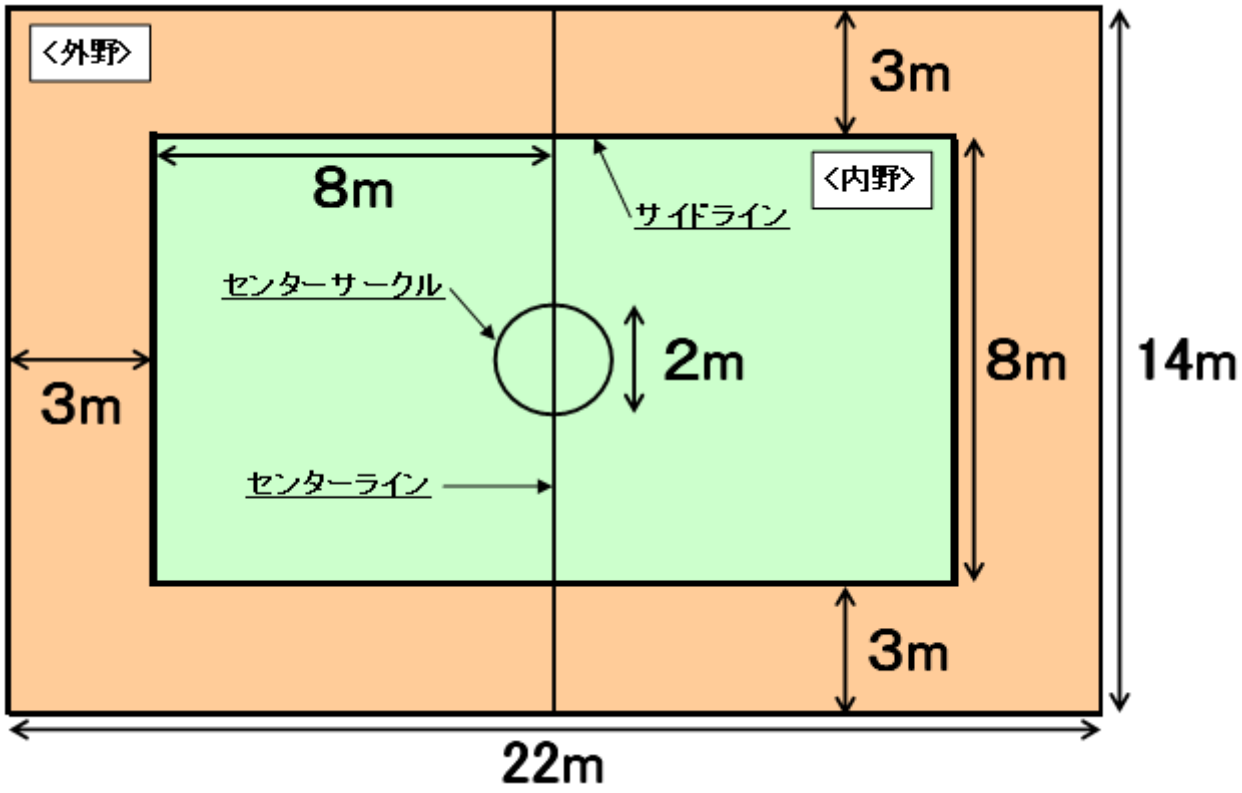
20011年度西宮学童ドッジボール大会ルール

１）コート

次図のように規定する



２）競技人数

・１チーム１２名以上１８名以下で登録する。
・試合に出場できるのはそのうちの１２名で、内野９名、外野３名とする。この外野３名（元外野）は相手の内野をアウトにしても内野に入ることは出来ない。他の外野と区別するため、元外野は赤白帽、または鉢巻き、その他すぐわかる目印を付けておく。（外野固定に関しては公式ルールに準じて設定しています）
・特例として１チーム１２名に満たない場合は、元外野の人数を２名とすることが出来る。
・試合途中でのメンバー交代は出来ない。

３）試合の進め方

・試合は両チームから１名ずつが、センターサークル内の相手コート側に入り、中央で審判が投げあげたボールをはたいて取り合うことで始められる。相手コートに入っていた選手は速やかに自分のコートに戻る。
・延長戦、再延長戦の場合も同様にして試合を開始する。
・規定の試合時間が経過したとき、またはどちらかのチームの勝利が確定した場合には、審判はコート内の子供をその場に座らせ、これで試合終了となる。

その後に次項の規定により勝敗および延長・再延長戦の実施を決定する。

４）勝敗

①一方の内野が全員アウトになって、誰も残っていなくなった時点で、その相手チームの勝ち
②競技時間終了時に内野に残った人数の多いチームの勝ち
③延長戦の場合、どちらかの内野が２名アウトになった時点で、その相手チームの勝ち
④延長戦終了後に内野に残った人数の多いチームの勝ち
⑤再延長戦の場合、どちらかの内野が２名アウトになった時点で、その相手チームの勝ち
⑥再延長戦終了後に内野に残った人数の多いチームの勝ち
⑦再延長でも決着が付かなかった場合は、それぞれのチームから選ばれた１人ずつがじゃんけんをして、勝った方の所属チームの勝ち

５）試合時間

・前半後半になし。
・試合時間は７分とする。
・延長の場合、延長試合時間は１分とする。
・再延長の場合、再延長の試合時間は１分とする。
・試合時間はランニングタイムとし、試合が停まっても時計は止めない。ただし、けが人などが出た場合は審判の判断によって時計を止めることが出来る。

６）勝ち点

・試合終了時、延長戦または再延長戦があった場合はそのすべてが終了した時点で、それぞれのチームの内野に残っている人数がそれぞれのチームの得点となる。また、リーグ戦の場合には勝ちチームの持ち点に５点が加算される。決勝トーナメントは、勝ち点を加算しない。

【例】
試合終了時の内野残人数が、Ａチーム６名、Ｂチーム３名であった場合、Ａチームの勝利となるのでＡチームに勝ち点１１（６＋５）が与えられ、Ｂチームには３点が与えられる。

７）審判

・一つの試合は審判、副審、線審２名の合計４名でコントロールされる。
・審判は試合の開始と終了を宣言し、持ちボール、アウト、セーフ、ファウルの最終判定を下す。
・審判の判定に異議を申し立てることは出来ない。
・副審は審判の補助としてもちボールの判定を行い、ストップウォッチで試合時間を計測し、試合終了の合図を行う。
・線審は審判の補助として、ラインの踏み越しファウル（ラインクロス）の判定のみを行い、ファウルがあった場合には笛またはフラッグまたはその両方を用いて合図を行う。
・審判はラインクロスのファウルについては厳しく取らなければならない。

８）アウト、セーフ

・投げたボールが直接相手チームの内野の人にあたった場合、アウトとなり、当てられた人は外野へ出る。ただし、次の場合はセーフとなるので引き続き内野でプレーできる。
①当てられた人が、そのボールが地面に落ちる前にキャッチした場合
②当てられた人と同じチームの内野の人が、そのボールが地面に落ちる前にキャッチした場合
③ボールの当たった位置が頭部（顔面を含む）の場合、ヘッドアタックとしてセーフ。
（ボールを避けようとして顔面を含む頭部に当たった場合も同様）
ただし、頭部に当たる前に肩や腕など体の他の部位に当たっていた場合はアウト。
④ボールを当てた人が外野（元外野を除く）の場合は、当てた人は内野に戻ることが出来る。
このときは速やかに内野に戻らなければ戻る権利を失う。あとで戻る事は許されない。
⑤なお、ボールを当てられた人と同じチームの人に地面に落ちる前に連続して当たり、その後地面に落ちた場合は、その２名がいずれもアウトとなる。外野の人が当てた場合に内野に戻れるのは当てた１名のみで、元外野の場合は０名。
⑥フェアプレーに反する行為があった場合。主審の判断でアウトを通告する。
※暴言や審判への異議申し立てなども含む

９）ファウル

以下の場合はファウルとして相手チームの持ちボールとなる。ファウルの場合、その相手チームの内野の持ちボールでゲームが再開される。
①内野でアウトになった人が、そのあと外野に出るまでの間に再度ボールに触れた場合。
②ボールを投げる際に、コートのラインを踏み、または踏み越した場合（ラインクロス）。
※投げ終わった後で踏んだ（越えた）場合は原則としてファウルとはならないが、あきらかに踏みあるいは越える事を前提とするような投げ方（助走を付けるなど）を行った場合には審判の裁定でファウルを取る。
③ボールをキャッチする際にコートのラインを踏み、または踏み越した場合（ラインクロス）。
ただし外野の人がコートの一番外側のラインを踏み、または踏み越した場合には適用されない。

④味方同士の手渡しはしない。（手渡しや落ちたボールを拾ったときも含む）
※審判はすぐファウルと取るのではなく、ボールを元のプレーヤーに戻すように促す。
従わない（ボールを投げてしまう、返さないなど）場合にはファウルを取る。
⑤味方の内野と外野の間で行うパスが５回を超えた場合。（６回目のパスを行った時点でファウル）→ 時間を経過させるために、味方同士のパス回しをした場合、審判の判断でファウルをとる
⑥応援している人（子供、大人とも）が故意にボールを触った場合
⑦なかなかボールを投げないなど、遅延行為があったと認められた場合。

10）持ちボール

・ファウルがあった場合には、その相手チームの内野の持ちボールとする。
・コート外へボールが出た場合には、センターラインのどちら側で出たかにより、出た側の外野の持ちボールとする。

【例】
外野のエリアを通過した場合はその外野の持ちボール。
外野でないエリアを通過した場合は、８ｍ幅のコートのサイドラインを通過した場所がセンターラインのどちらかで判定する。

11）応援

・応援は、外野の更に外側に引かれたラインよりも下がって行わなければならない。
・応援者がラインを越えてボールを触った場合には、その反対側のチームの持ちボールとなる。
・応援は、節度を保ってマナー良く行われなければならない。競技者をおとしめたり、非難するような言動は慎まなければならない。
・応援者があまりにも競技の進行を阻害すると判断された場合には、審判によって退場を命ぜられることがある。

12）順位の付け方

・リーグ戦を行った場合の１位は次のようにして決定する。
①一番勝利数の多いチーム
②勝利数の同じチームが２チームあった場合は、直接の試合で勝ったチーム
③勝利数の同じチームが３チームあった場合は、一番勝ち点の多いチーム。２チームに絞られたら前項②を適用し、３チームとも同じ場合には３分間ずつの順位決定リーグ戦を行う。
④勝利数の同じチームが４チーム以上の場合には前項②③の順で適用する。